

第2号

患者総合サポートセンターたより

2024 年9月発行 新潟医療センター 患者総合サポートセンター

日頃から『患者総合サポートセンター』へのご支援ありがとうございます。
今回は、6月20日に開催した今年度1回目の「こばりの広場」の報告と入院支援看護師の業務について紹介いたします。

第11回こばりの広場 開催報告

◆開催日：令和6年6月20日

参加者：院外 29 名、院内 28 名 合計 57 名

院 外：地域包括支援センター小新小針、在宅医療・介護連携ステーション西、行政、
小新小針圏域のケアマネージャー、介護保険施設（特養・老健・小規模多機能）

院 内：医師、外来・病棟看護師、患者総合サポートセンター

◆内 容

『病院・医院・福祉施設・在宅の間でどのように情報を伝えるべきか』をテーマに
7グループに分かれ、グループワークを実施。以下のような意見があがりました。

医療と介護・福祉の意思疎通の現状

【入院】

- ・退院後、元の生活や施設に戻れるかどうか、入院時から退院支援が始まっている。
- ・入院時の在宅側の情報提供は、病院が何を知りたいのかという視点で記載している。
- ・リハビリのゴールや退院許可が出てからの連絡では調整が間に合わない。見通しの段階で、早めに連絡がほしい。
- ・病院側の『病状が安定している』『大丈夫』の幅が広く、施設側で対応可能な範囲と相違がある。

【外来】

- ・外来患者の相談を誰にしたら良いか。
- ・施設からの救急同行の際、外来で長時間拘束されてしまう。特に夜間は施設側も人手が少ないため困る。

課 題

【情報共有について】

- ・ケアマネージャー/施設側と病院側では双方が得たい情報に相違があることを理解しあう。
- ・病院は医療面の視点に偏りがちであることを意識し、退院後の生活の視点での情報共有が必要。
- ・入院前後の状況変化や今後の見通しについて、中間カンファレンスの開催が重要。

【書式の統一・システム化】

- ・ADL 表、各種サマリー等の情報共有シートはそれぞれのものを使用している。
共通のフォーマットを西区で行政を交えて検討ができないか。
- ・病院と在宅との情報共有に電話以外の連絡システムができないか。

【関係構築】

- ・気軽に相談し合える関係づくりが大切。

入院支援看護師業務の内容と流れ

入院支援看護師は、入院前に患者様の基本情報（日常生活の様子や今までの病気など）を伺い、入院前の各種評価や服用中の薬剤及び入院前の食事状況などの確認を行い、患者様が安全・安心して入院生活を送ることができるように、他職種と連携を取りながら支援をしています。入院が決まった患者様の入院支援の流れは下記のようになっています。

入院支援の流れ

診察 予定入院決定・・・主治医が入院の説明



患者サポートセンターへ案内・・・外来看護師



患者サポートセンターに来て頂き、入院支援介入の予約日を決定します。
患者様へ「入院のご案内」「ケアサポートセットのご案内」「入院される患者さんご家族の方へ」をお渡しします。



「入院される患者さんご家族の方へ」は、入院支援の予約の日までに記入していただきます。

入院支援予約日当日

入院支援看護師が下記のことをお聞きしたり説明したりします



- ・入院に至った経緯や入院歴、手術歴、治療歴の確認
- ・日常生活の状況や転倒や転落の危険性を確認
- ・入院の手続きや入院に必要な物、注意事項の説明
- ・入院や手術・治療について心配事や不安な事をお聞きして担当部署と情報を共有します
- ・必要に応じて薬剤指導や栄養指導



入院

（患者総合サポートセンター寺野・有吉・奥野）